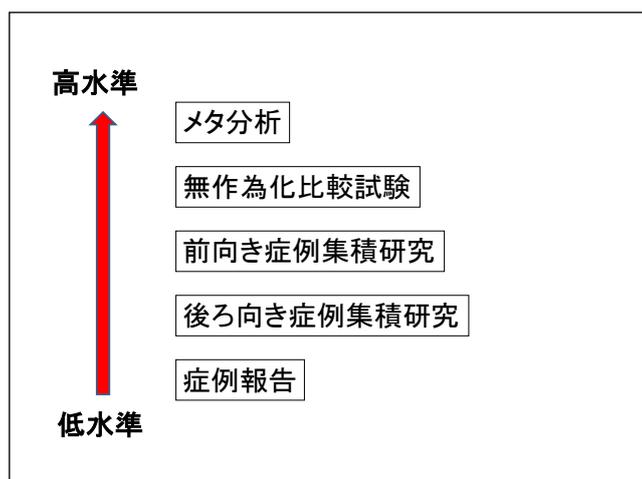


症例報告のお作法

最初の学会発表は「症例報告」から

上司から「この症例は今度の学会で報告しなさい」と言われました。何故？症例報告するのでしょうか。それは「**稀な症例だから**」です。しかし、上司に言われた研修医はこの症例が本当に「稀」なのかどうか分かりません。「**稀**なことを証明する」ためにはどうしたら良いでしょう。簡単ですね、ウェブで Pub Med¹と医中誌²で検索を掛ければ大体の予想が付きます³。多くの場合、同じような症例報告があるはずですが。検索結果で「極々稀」なのか、「比較的稀」なのかの判断が付きません。余り稀で無いことが分かった場合は上司に相談しましょう⁴⁵。いくつかの文献をコピーして置く事も忘れないように。

症例報告で最も注意すべき点は「**稀であることの証明**⁶」と「**この症例から何を学ぶか**」です。この症例から何を学ぶかが明確でない症例報告は印象に残りません⁷。学会報告が済んだら活字にして投稿しましょう。



症例報告の臨床研究での医学的な価値は決して高くありません。しかしながら、**専門医制度**などでは重要な役割があります。様々な学会の専門医取得には「学会雑誌」に筆頭著者としての論文掲載が義務付けられていることもありますし、評議員資格などにも学会雑誌での筆頭著者での投稿実績が要求されることもあります。症例報告は必ず論文化しておきましょう。「極々稀な」症例報告は欧文で書くことをお勧めします。

¹ 欧文の医学雑誌の文献検索サイトです。無料で使用出来ます。使い方は上司に教わりましょう。

² 日本の医学雑誌の文献検索サイトです。

³ Google でも検索を掛けて見ましょう。この場合は「〇〇病*XX」で検索します。

⁴ 上司は 10 年に一度、あるいは 20 年に一度に経験する症例を、直感的に「稀」と判断しています。しかしながら、地域要因、時代要因などで「稀」で無いこともあります。そのような場合には資料を付けて報告しましょう。

⁵ 専門家の意見や経験は症例報告よりエビデンスの低いとされています。自ら確認する習慣を付けましょう。

⁶ 「過去何例の報告があった」あるいは「0000 例中 0.0X%」など

⁷ 例えば、「〇〇病の早期発見には CT が重要である」など

